

夏の活動の実りを感謝し、いざ秋へ



ICCPJ 研修生受け入れ (左)楊さん[中央赤シャツ]を BBQ で歓迎するリーダー・スタッフ (右)アフタースクールで児童から折り紙を教わる



楽しいキャンプ (左)小川で水遊び (中)流しそうめん 右はスポンサーからチャリティーランへの寄贈品の受け取り

千葉 YMCA ニュースボード
2024 年 9 月 1 日 第 299 号
<https://www.chibaymca.net/>

キャンプ指導者研修受け入れ

国際キャンプ指導者研修(ICCPJ)で受け入れていた台湾の楊子韻さんの研修が 8/24 終了しました。1 か月間、千葉市少年自然の家での接客や施設整備、キャンプ、アフタースクール訪問を通じて、沢山の方々と過ごし、ご本人の希望であった日本語のリスニング、スピーキングも上達しました。

受け入れにご協力いただいた方々に感謝申し上げます。

研修終了後も同世代のユース間では、日々の交流が続いています。

帰国までの時間、共に国内観光などを楽しむ計画があるようです。

YMCA は、このような機会を通じて、文化や言葉の違いに囚われることなく、若者同士の友情が育まれることを願っています。

◆夏キャンプ、地元との交流も

7 月 8 月と酷暑が続きましたが、4 つのキャンプを無事に終了し、現在 5 つ目の「ほしふるキャンプ(栃木県塩谷郡)」を実施中。キャンプ地は、明

治開校後、124 年経って閉校した熊ノ木小学校。木造校舎をそのままに、宿泊や田舎体験が出来る施設になっています。

ディレクターは、「自然環境もさることながら、地元の方々が丁寧にキャンプを見守ってくれること。」がこのキャンプで一番大事にしたいことと話します。今年もキャンプで行う「夏まつり」のために、夕飯を「焼きそばやイカ焼き」等のお祭りメニューにくださったそう。毎年子どもたちの歌うキャンプソングを楽しみにしてくださっています。

多種多様なレジャー的体験を提供するキャンプも魅力的ではありますが、地元の方々との交流ができ、地元の生活を垣間見ることのできるキャンプは、子どもたちにちょっと違った思い出をつくるかもしれません。

◆第 27 回千葉 YMCA インターナショナル・チャリティーラン

今年は、例年よりも 1 か月早い開催となり、暑さを心配していましたが、8 月後半になり、暑さが和らいできてホッとしています。先日、船橋中学校に打合せに伺い、担当の先生からこんなお話を伺いました。

「保護者から、「今年の YMCA はいつですか？」と問合せがあるんですよ。」

会場で披露するよさこいの演舞を楽しみにしている保護者が結構いるとのこと。また、他の部活の生徒も「運動公園での練習後に見に来ているんですよ」と。

演劇部は、大きな大会を控えての参加となりますが、生徒さん方は、気合十分に準備をしています。

9 月 28 日。是非、会場船橋市運動公園にお越しください。(同封チラシ参照)

◆自然の家「秋わい」は 10 月 20 日
詳しくは自然の家 HP を参照。

- 千葉センター 043-222-3811
 - 船橋地域デポ 047-425-6366
 - 千葉市少年自然の家 0475-35-1131
 - 千葉市立千城台みらい小学校アフタースクール 043-236-1701
 - 千葉市立坂月小学校アフタースクール 043-236-5550
 - 千葉市立千城台東小学校アフタースクール 043-237-7376
- ニュースボード編集: 青木一芳(理事)
メール kkaoki@myad.jp